

生活単元学習の授業づくりに関する研究

—各教科等とのつながりのある単元設定から学習評価までの考え方—

特別支援教育室 水野由美 山田亜紀 和田学
越智宣和 玉乃井美穂
研究協力者 愛媛大学大学院教育学研究科教授 榎木暢子

【要約】

平成30年改訂の特別支援学校学習指導要領解説各教科等編では、「各教科等を合わせた指導」においても、各教科の目標や内容を取り扱い、それに準拠した評価の実施を目指すとの方針が、明確に示された。そこで、生活単元学習における、各教科等の目標と学習活動の関連や、学習評価の在り方について検討し、実態把握から学習評価までの一連の考え方を示した「ガイドブック（案）」を作成した。また、研究員への意見聴取を基に、「ガイドブック（案）」を改善した。

【キーワード】 生活単元学習 各教科等とのつながり 学習評価の在り方 ガイドブック（案）

1 研究の目的

平成29年4月告示の特別支援学校幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領では、指導と評価の一体化の必要性が明確に示された。

「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」では、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して、各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価が重要な役割を担うことが示されており、授業改善の一連の過程に学習評価を適切に位置付けることが求められている。

知的障がい者である児童生徒に対して教育を行う特別支援学校の教育課程には、「各教科等を合わせた指導」という指導の形態がある。平成30年3月改訂の学習指導要領解説各教科等編に、「各教科等を合わせた指導」を行う場合においても、「各教科等の目標を達成していくことになり、育成を目指す資質・能力を明確にして指導計画を立てることが重要となる」「各教科の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行うことが必要である」と追記された。これによって、「各教科等を合わせた指導」においても、各教科の目標や内容を取り扱い、それに準拠した評価の実施を目指すとの方針が、明確に示された。しかし、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所が、全国の知的障がい特別支援学校を対象に行った学習評価に関する調査（令和2年）では、「各教科等を合わせた指導」における学習評価や「個別の指導計画における個人の評価と各授業における学習評価と

の関連」が、課題として挙げられている。

「各教科等を合わせた指導」の中でも、生活単元学習は、社会生活を送る上で必要となる様々な事柄を、体験的、实际的に学ぶことを重視しており、知的障がいのある児童生徒への有効な指導の形態として、特別支援学校や特別支援学級の教育課程に位置付けられてきた。しかし、各教科等との関連や学習評価の在り方についてまとめたものは少ないのが現状である。

そこで、生活単元学習の授業づくりにおける、各教科等の目標との関連や学習評価の在り方についてのポイントや具体的な手立てを明らかにすることが、生活単元学習の授業づくりの指針となるのではないかと考えた。また、令和2・3年度研究「知的障がい教育における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に関する研究—生活単元学習の授業づくりを通して—」に基づく研究を行うことで、実態把握から学習評価まで、授業づくりの一連の考え方を具現化することができると考える。その考え方をまとめた資料を作成し提供することで、特別支援学級や特別支援学校での授業づくりを支援することができると考え、2年間継続の研究として取り組むこととした。

1年次である本年度は、研究員の協力を得て、生活単元学習の授業づくりに関する資料の原案を作成する。

2 研究の内容

(1) 資料の作成

資料の名称を、「主体的・対話的で深い学び」を実現する生活単元学習の授業づくりガイ

ドブック（案）」（以下「ガイドブック（案）」という。）とし、平成30年3月改訂の学習指導要領各教科等編や先行研究等を参考にするとともに、研究協力者の助言を得て、内容を検討した。

ア 「ガイドブック（案）」の概要

「各教科等を合わせた指導」においても、各教科等の目標を達成していくためには、育成を目指す資質・能力を明確にして指導計画を立てることが重要である。また、生活単元学習においては、発達段階や生活年齢を踏まえ、自然で実際的な生活上の課題を教材とし、単元化することが大切である。そこで、児童生徒の実態把握から学習評価までを授業づくりと捉え、その過程に沿ってそれぞれの考え方を示すこととした。なお、単元計画及び授業計画については、令和2・3年度研究「知的障がい教育における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に関する研究－生活単元学習の授業づくりを通して－」の成果である「単元・授業計画の考え方」に基づいて示した。

「ガイドブック（案）」の概要を次に示す。

- | |
|---------------|
| 1 実態把握／2 目標 |
| 3 学級集団の実態の整理 |
| 4 年間指導計画 |
| 5 教育課程の確認 |
| 6 単元設定 |
| 7 単元計画 |
| 8 授業の目標及び評価規準 |
| 9 授業計画 |
| 10 学習評価 |

内容については、左側に授業づくりの過程を、右側に手立て等を記す形式で示した。また、授業づくりの過程が分かりやすくなるように、情報を精選し簡潔に示す、例を示す、ポイントをまとめて掲載するなどの工夫をした。

イ 「ガイドブック（案）」の内容

(7) 「1 実態把握／2 目標」「3 学級集団の実態の整理」

「1 実態把握／2 目標」では、①実態把握の方法、②個別の教育支援計画及び個別の指導計画の活用、③各教科等の学習段階及び目標の把握について、「3 学級集団の実態の整理」では、個々の実態を基に学級集団としての実態の整理を行うことについて示した。

(4) 「4 年間指導計画」

「4 年間指導計画」では、作成の手順を六つのステップで示した。

- | |
|--------------------------|
| ① 教材 |
| ①-1 教材の案 |
| ①-2 教材の検討 |
| ② 主とする教科や主な学習活動 |
| ③ 単元間のつながり |
| ④ 実施する単元の精選 |
| ⑤ 各単元の時数及び主とする教科に係る時数の割合 |
| ⑥ 各教科等の総時数（概数） |

「各教科等を合わせた指導」においては、取り扱う教科等の内容を基に、児童生徒の知的障がいの状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定し、指導内容に適した時数を配当することが大切である。その際、指導に要する授業時数をあらかじめ算定し、関連する教科等別に指導する場合の授業時数の合計とおおむね一致するように計画しなければならない。そのためには、各単元の時数やその単元で取り扱う教科を明確にし、授業時数を検討しながら計画する必要があることから、「⑤ 各単元の時数及び主とする教科に係る時数の割合」「⑥ 各教科等の総時数（概数）」のステップを設けた。なお、「各教科等を合わせた指導」における学習内容は、多様な教科の内容を含むものである。そのため、「各教科等を合わせた指導」で取り扱う教科を「各教科等を合わせた指導において目標を設定し、評価を行う教科」として捉えることとし、各単元において主に指導する教科を「主とする教科」として、時数等を検討することとした。

また、各ステップの内容については、検討の過程でより詳細なイメージを持てるように、一つのステップを細分化したり具体例を挙げたりして示した。

(4) 「5 教育課程の確認」

「5 教育課程の確認」では、「各教科等を合わせた指導」で取り扱う教科と、その教科の授業時数のうち、生活単元学習において実施する授業時数を確認する過程を示した。また、学校種や教育課程に応じて確認できるように、それらを分けて示した。

「各教科等を合わせた指導」で取り扱う教科

や、特別支援学級において知的障がい特別支援学校の教科に置き換えた教科を明確にするため、教育課程に応じて確認する過程を示した。また、自校の教育課程表を基に書き込みながら、確認したり検討したりするようにした。

(イ) 「6 単元設定」「7 単元計画」

単元設定から授業計画までは、令和2・3年度研究の成果である「単元・授業計画の考え方」に則して計画を立てることとした。そこで、「ガイドブック（案）」では、教科目標との関連や学習評価に関することに焦点を絞って示し、令和2・3年度研究成果物「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくり実践ガイドブック」を併用することとした。

授業を行うに当たっては、単元を通して内容のまとまりを見通しながら、学習過程の適切な場面で評価を行うことが必要である。また、「各教科等を合わせた指導」においても、育成を目指す資質・能力を明確にすることが必要である。そこで、単元計画を立てる際、主たる学習活動と主とする教科の内容（領域）や評価の観点の関連性を往還しながら検討、決定することを示した。

(ロ) 「8 授業の目標及び評価規準」

「8 授業の目標及び評価規準」では、評価規準を中心に示した。評価の3観点についての考え方をポイントとしてまとめ、その具体例である授業の目標に応じた評価規準を示した。

(ハ) 「9 授業計画」「10 学習評価」

「9 授業計画」では、「7 単元計画」で示した主とする教科の内容（領域）や評価の観点に応じた学習活動の設定の仕方を示した。

生活単元学習は、実際的な生活上の課題を教材として単元化し、課題に沿った実際的な学習活動が自然に展開される。その学習活動を通して各教科等の目標を達成し、資質・能力を身に付けていくため、各教科等の目標を学習活動に落とし込み、生活に即した具体的な活動を設定することが大切であると考えている。

また、その学習活動に対する評価を行うことが、適切な各教科等の目標の評価につながることを考える。

(2) 研究員への意見聴取

研究員として、県内の小・中学校（各2校）で生活単元学習を実施している知的障がい特別

支援学級担任4名（各校1名）に依頼し、「ガイドブック（案）」の内容について、意見聴取を行った。

ア 意見聴取の方法及び聴取事項

(7) 意見聴取の方法

意見聴取は、アンケート調査とウェブ会議システムを利用した意見交換会により実施した。アンケート調査は令和4年9月28日から10月14日の期間に実施し、意見交換会は令和4年11月10日に実施した。

(イ) 聴取事項

アンケート調査では、「ガイドブック（案）」の「全体を通した構成や読みやすさ」と「授業づくりの過程の説明に対する分かりやすさや疑問点等」について質問した。授業づくりの過程については、より具体的な意見を得るため、内容のまとまりを考えて八つに分けて実施した。

- 「1 実態把握／2 目標」「3 学級集団の実態の整理」
- 「4 年間指導計画：①教材、②主とする教科や主な学習活動」
- 「4 年間指導計画：③単元間のつながり、④実践する単元の精選」
- 「4 年間指導計画：⑤各単元の時数及び主とする教科に係る時数の割合、⑥各教科等の総時数（概数）」
- 「5 教育課程の確認」
- 「6 単元設定」「7 単元計画」
- 「8 授業の目標及び評価規準」
- 「9 授業計画」「10 学習評価」

回答方法は選択式とし、その理由を記述式で求めた。質問事項は、次のとおりである。

◇以下の質問にお答えください。（回答は、該当する項目全てに☑してください。）

■全体を通して、お答えください。

【構成について】

十分な内容で構成されている
*具体的に、御記入ください。

掲載すべき内容が不足している
*具体的に、御記入ください。

授業づくりの流れを整理することができる

授業づくりの流れに難しさを感じる
*難しいと感じたところ（項目）や理由を、御記入ください。

【読みやすさについて】

- 文字の大きさや文字の量等が適切である
- 文字の大きさや文字の量が不適切である
→文字の大きさ：大きい 小さい
文字の量：多い 少ない

- レイアウトが適切である
- レイアウトが不適切である

*理由や改善案等を、御記入ください。

- その他

*改善点や希望することを、御記入ください。

■授業づくりの過程について、お答えください。

*説明について

- 内容が分かりやすく書かれている

*なぜそう思いましたか。理由を御記入ください。

- より詳しい説明が必要である

*なぜそう思いましたか。理由を御記入ください。

*内容について、不明な点や疑問に感じることを、御記入ください。

*気付いたことや気になったことなど、自由に御記入ください。

意見交換会（ウェブ会議）は、研究員4名、特別支援教育室の指導主事1名が参加し、計5名で実施した。研究員のニーズをより具体的に把握するとともに、改善案を検討するため、授業づくりの過程に沿って、アンケート結果を基に話し合った。

イ 意見聴取の結果及び考察

(7) アンケート調査

全体を通した構成や読みやすさについて、記述による回答結果を次に示す。

【構成について】

- 十分な内容で構成されている

- ・初めて特別支援学級担任をする者には十分すぎて、かえって分かりにくいかもしれない。読んで理解するのに時間が掛かるため、分量が減るとよい。
- ・授業づくりの先に3観点の評価規準があり、十分な内容である。子どもの実態が多様なので、具体例があるとよい。

- 掲載すべき内容が不足している

(回答なし)

- 授業づくりの流れを整理することができる

- ・全体的に授業を組み立てていく流れとして正しいと思う。優しいカラーや大きめの文字も見やすい。

- 授業づくりの流れに難しさを感じる

- ・経験の浅い特別支援学級担任にとっては、「5 教育課程の確認」以降の内容は、難しさを感じると思う。
- ・「5 教育課程の確認」がやや煩雑だと感じる。
- ・「5 教育課程の確認」では、子どもによる単元における時数の差をどう埋めるのか、疑問に感じる。

【読みやすさについて】

- 文字の大きさや文字の量等が適切である

- 文字の大きさや文字の量が不適切である
→文字の大きさ：大きい 小さい
文字の量：多い 少ない

- レイアウトが適切である

- レイアウトが不適切である

- ・説明と表が一緒にあるので、初めて特別支援学級担任をする先生は、説明してもらう必要がある。

- その他

- ・具体例が多くあるとよい。具体例を基に自分なりに考えていけるといい。
- ・例がたくさんあると、まねてやってみようと思える。
- ・年度当初にすることを考えると、特に経験の浅い教員には難しい。例があると、参考になる。
- ・生活単元学習における授業づくりに関する理解を深めることができ、大変勉強になった。

全体の構成及び読みやすさについては、おおむね適切であると考ええる。しかし、経験の浅い教員にとって分かりやすい資料とするためには、内容を精査するとともに、より多くの具体例を示すことが必要であると考ええる。

次に、授業づくりの過程の説明に対する分かりやすさや疑問点等について、記述による回答結果を示す。

■「1 実態把握／2 目標」「3 学級集団の実態の整理」

*説明について

- 内容が分かりやすく書かれている

- ・表と説明が順に書かれているので、思考の流れがスムーズである。
- ・簡潔にまとめられている。

- より詳しい説明が必要である

- ・「3 学級集団の実態の整理」の具体例があるとよい。

*不明な点や疑問に感じること

- ・市の個別の指導計画の様式では、各教科の目標を記入していない。

***気付いたことや気になったこと**

- ・右側の説明は、キーワードやフローチャート、手順番号などで示されていると情報量が減り、読みやすくなるのでは。
- ・各教科の学習段階のチェック表の作成を期待している。子どもの実態差があるが、的確な実態把握につながると思う。
- ・全体の記入例の作成を期待している。

■「4 年間指導計画：①教材、②主とする教科や主な学習活動」

***説明について**

内容が分かりやすく書かれている

- ・年間指導計画の枠が、「学校行事」「季節・季節行事」等の項目で区切られており、1年間の計画が一目で把握できるので分かりやすい。
- ・参考資料があるのでよい。

より詳しい説明が必要である

- ・②の例が一つだけなのもったいない。相談する人がいない場合もあるので、例がたくさんあると、参考になる。

***不明な点や疑問に感じる点**

(回答なし)

***気付いたことや気になったこと**

- ・①-1 から①-2 で改善した箇所に色を付けると分かりやすい。

■「4 年間指導計画：③単元間のつながり、④実施する単元の精選」

***説明について**

内容が分かりやすく書かれている

- ・単元間のつながりが一目で分かりやすい。
- ・精選するときのポイントがまとめられているので、精選の基準として有効である。

より詳しい説明が必要である

- ・精選されている過程が分かるようにすると、より分かりやすくなる。

***不明な点や疑問に感じる点**

- ・単元名の付け方も追記するとよい。

***気付いたことや気になったこと**

- ・精選したり、重複したりした内容を教師が把握することで、活動がステップアップし、児童生徒の深い学びにつながる。ステップアップの手立てが書かれていると、流れがより分かりやすい。
- ・精選のポイントが多いので、関連する項目をまとめるとよい。
- ・年間指導計画の完成のイメージが持てるとよい。その過程は、手順として示したのもよいのではないかな。
- ・教材の例やポイントが、多く示されているとよい。

■「4 年間指導計画：⑤各単元の時数及び主とする教科に係る時数の割合、⑥各教科等の総時数(概数)」

***説明について**

内容が分かりやすく書かれている

- ・各単元の時数を設定することにより、年間や月、週ごとの授業の進め具合の把握につながる。

より詳しい説明が必要である

- ・説明では、具体的な数値例があるとよい。例があると、初めての先生も考えられる。
- ・主とする教科の割合を%で示すことが難しい。
- ・各教科の総時数を考えることに難しさを感じる。

***不明な点や疑問に感じる点**

- ・子どもによって時数が異なるため、時数等を確認する意義が分かりづらい。
- ・単元ごとに、主とする教科の時数の割合を考えるのか。

***気付いたことや気になったこと**

- ・各単元の時数は必要だが、主とする教科にかける時数の割合を考えることには、時間が掛かり過ぎ、不確定要素が強いため難しい。

■「5 教育課程の確認」

***説明について**

内容が分かりやすく書かれている

(回答なし)

より詳しい説明が必要である

- ・記入例があるので作成することはできるが、具体的な数値が例示されていると、より分かりやすい。
- ・作業が煩雑で大変そうだと感じる。

***不明な点や疑問に感じる点**

- ・学級内に異なる教育課程の児童が在籍する。その場合、教育課程ごとに確認するのか。また、確認した時数が、単元設定でどのように反映されるのか。

***気付いたことや気になったこと**

- ・より具体的な参考例が欲しい。
- ・教育課程については、読んだだけでは理解することが難しい。

■「6 単元設定」「7 単元計画」

***説明について**

内容が分かりやすく書かれている

- ・「「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくり実践ガイドブック」と照らし合わせると、イメージしやすかった。
- ・具体例が他にもあるとよい。

より詳しい説明が必要である

- ・説明に、具体的な文言が入っているとよい。

*内容について、不明な点や疑問に感じることを、御記入ください。

(回答なし)

*気付いたことや気になったことなど、自由に御記入ください。

・単元設定や単元計画も年度当初に行うのか。一度作成することができると、引継ぎ、調整しながら活用していけると思う。
・学年に応じた例が幾つかあるとよい。

■「8 授業の目標及び評価規準」

*説明について

内容が分かりやすく書かれている

・評価規準の例が、下線とキーワードがセットになっているので分かりやすい。
・評価規準の例が具体的で分かりやすい。
・例があると分かりやすい。学校行事に関する例もあると通信簿や要録に活用できる。

より詳しい説明が必要である

(回答なし)

*不明な点や疑問に感じる事

・キーワードの囲み線の意味が分かりづらい。

*気付いたことや気になったこと

・例以外にも評価規準の例がたくさんあるとよい。

■「9 授業計画」「10 学習評価」

*説明について

内容が分かりやすく書かれている

・「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくり実践ガイドブック」と照らし合わせると、イメージしやすかった。

より詳しい説明が必要である

・説明に具体的な文言が入っているとよい。
・「知識・技能」だけでなくほかの評価規準の例もあるとよい。

*不明な点や疑問に感じる事

・授業計画の中の「重視する学びの姿」は、評価規準と重なる部分があるので、必要なのか疑問に感じた。

*気付いたことや気になったこと

・昨年度の資料と併せて見なければ、難しい。

授業づくりの過程の説明については、おおむね適切な内容であったと考える。特に、具体例が示された過程については、分かりやすいとの評価を得た。しかし、「5 教育課程の確認」については、研究員全員が、より詳しい説明が必要であると回答した。確認の手順が複雑であることや具体的な数値で説明をしていないこと、さらに教育課程そのものの分かりにくさがあり、

十分な内容ではなかったと考える。確認の手順を見直すとともに、説明の仕方を再検討する必要があると考える。

また、どの過程においても、より多くの具体例を必要とするとの回答を得た。特に、経験の浅い教員にとって、授業づくりの考え方を理解しやすく、活用しやすい資料とするためには、多くの具体例が必要であることが指摘された。しかし、具体例が増えると「ガイドブック(案)」の分量も増えるため、示し方を工夫する必要があると考える。

(i) 意見交換会(ウェブ会議)

意見交換会の前に、特別支援教育室の指導主事5名で、アンケート結果を基に改善点等を話し合い、具体的な改善方法を検討したり、より具体的なニーズの把握が必要な内容を確認したりした。意見交換会では、アンケート結果を参加者全員で確認しながら話し合いを進め、指導主事が改善方法を提案したり説明を加えたりしながら、研究員の意見を収集した。また、アンケート調査で挙げた質問に回答するとともに、研究員に質問を行い、具体的なニーズを把握した。検討事項、意見等を、次に示す(表1)。

表1 検討事項、意見等

K:研究員 S:指導主事

3 学級集団の実態の整理	
内 容	記入例の扱い
意見等	S:「ガイドブック(案)」と併せて記入例を別に作成する予定である。 K:授業づくりの流れの中に、記入例が示されているとよい。 K:説明と一緒に読むことができると、より分かりやすい。
4 年間指導計画	
内 容	①-1 教材の案
意見等	K:既に精選された印象を受けるため、案はたくさんあるとよい。 K:中学校を想定した例があるとよい。 S:資料全体の分量が増えるため、小・中学校別に資料を作ることも考えられるが、どうか。 K:様々な実態の生徒がいるため、一つで両方が見られるとよい。
内 容	①-2 教材の検討(過程の示し方)
意見等	K:二つの表を見比べたい。(縦並びではなく)横並びにして、比べやすくなるか。左側に流れがあり、右側に説明がある形式を変えずに、できるとよい。 K:関連する教材が分かりにくい。 S:合わせた教材は記号(+)を用いて表

	している。示し方を工夫したい。
内容	② 主とする教科や主な学習活動
意見等	S：学校行事に関する単元だけでなく、季節・季節行事に関する単元や生活上の課題に関する単元の例も挙げる。 K：①－2と教材の数が変わっていない印象を受ける。検討が進むにつれて、教材案が消えていくといいのではないかと。 K：主とする教科にどの教科を入れればいいのか、分かりにくい。
内容	③ 単元間のつながり
意見等	K：急に単元になるので、どう単元化するのか、分かりにくい。 S：③の段階では、「教材間のつながり」の方が分かりやすいか。 K：分かりやすい。 K：単元間のつながりが、言葉による説明だけでは分かりにくい。 S：ポイントで示した項目について、具体的な例を挙げて、考え方を示したい。
内容	④ 実施する単元の精選
意見等	K：③から④への考え方が難しい。見比べられるとよい。 S：比較できるように示したい。
内容	⑤ 各単元の時数及び主とする教科に係る時数の割合
意見等	K：時数を考えることはできるが、時間が掛かる。また、難しさを感じる。主とする教科に係る時数を示す必要性は何か。 S：「各教科等を合わせた指導」においても、教科別に指導する場合の授業時数の合計とおおむね一致するよう計画する必要がある。教科の偏りがないように計画するためにも、必要だと感じている。 K：どれくらいの時数が必要なのか、あらかじめ分かっている方がよい。 S：教育課程の確認を年間指導計画の後にしているが、先の方がよいか。 K：よい。また、時数が示されているのであれば、割合ではなく具体的な数値で考える方がよい。
内容	⑥ 各教科等の総時数（概数）
意見等	K：⑤に入力した時数が、自動的に反映されるようにしてほしい。 S：年間指導計画の様式を工夫し、反映できるようにしたい。
内容	作成の過程
意見等	K：②で主とする教科や主な学習活動を考えたが、その後単元化しているので、再度考え直さなければならないのか。年度当初に作成することを考えると、検討する過程が少ない方がよい。 S：作成過程を見直したい。
5 教育課程の確認	
内容	確認の過程
意見等	K：教育課程の組み方が難しい。 S：既に作成された教育課程を基に、生活単元学習に係る時数を確認する過程で

意見等	ある。検討段階ごとに表を示している ので、教育課程を検討する過程である との印象を与えているのではないかと。 表を一つにまとめるなど、示し方を工 夫したい。
内容	主とする教科の時数
意見等	K：年間指導計画で計画した各教科等の時 数と一致しないのはなぜか。 S：自立活動は、学校生活全般において指 導されるため、生活単元学習の時間 においても、その内容が含まれる。ま た、「教科別の指導」で取り扱う教科 の内容が含まれている場合もあるた め、主とする教科だけで成り立つも のではないと考える。
7 単元計画	
内容	例の示し方
意見等	K：具体的な文言が入っているとよい。 K：小学校低学年、中学年、高学年ごと に例があるとよい。 S：記入例の示し方を検討したい。
8 授業の目標及び評価規準	
内容	評価規準の例
意見等	K：より多くの単元例を取り上げて、授業 の目標の例を示してほしい。 S：評価規準の設定の仕方を示している。 同じ教材を取り上げる単元でも、子 どもの実態に応じて目標や学習活動は 変わるものである。そのため、複数の 例を示すことは難しい。 K：教科ごとに、評価規準の例があると よい。 S：授業の目標は、学習活動に対する行 動目標であり、教科の目標に対するも のではないと考えている。
9 授業計画	
内容	各教科等の目標に係る学習活動
意見等	S：「知識及び技能」の例を挙げている が、ほかの資質・能力についても、示 したい。 K：授業計画についても、具体的な文言 が入っているとよい。 S：単元設定以降は、令和2・3年度研 究成果物と併せて見ていただくよう にしている。具体例にもなるので、 成果物の活用の仕方を検討したい。

「ガイドブック（案）」全体を通して、具体例をより多く必要とするとの意見を得た。中でも、「4 年間指導計画」と「5 教育課程の確認」に関することに難しさを感じており、より分かりやすい説明を必要としていることが明らかとなった。「4 年間指導計画」については、作成する過程だけでなく、各ステップのポイントがより分かりやすくなるよう、例の示し方を工夫する必要があると考える。「5 教育課程の確認」については、意図が十分に伝わ

ておらず、教育課程を検討する過程であるとの印象を与えていることが明らかとなった。そのため、より分かりやすい構成や説明になるよう、再検討する必要があると考える。

また、単元目標及び授業の目標の考え方や教科の目標の捉え方、「各教科等を合わせた指導」による教科の捉え方については、難しさを感じていることがうかがえた。特に、「各教科等を合わせた指導」による教科の捉え方については、教科の目標に対する評価の在り方にも関連することである。そのため、適切に捉えられるよう、示し方を再検討する必要があると考える。

(3) 資料の改善

意見聴取の結果及び考察を基に「ガイドブック(案)」の改善を行った。主な改善点は、次のとおりである。

- 具体例の追加
- 手立て等の追加
- 手順の入替え
- 「教育課程の確認」の説明の見直し
- 「年間指導計画」の示し方を見直し
- 令和2・3年度研究成果物の活用方法の見直し
- 全体像の提示

ア 具体例の追加

手立てやポイントの考え方が、より具体的で分かりやすくなるよう、具体例を新たに加えたり、複数の例を示したりした(図1)。なお、どの過程に追加するか検討し、イメージを持ちやすく、理解しやすくなると思える過程を精選した。

例2: ①学習活動や成果を活用・応用することが可能

野菜の栽培 → **暑中見舞い**

夏野菜を収穫する。 → 育てた夏野菜をスタンプにしてはがきに模様を付け、そのはがきで暑中見舞いを書く。

図1 「具体例の追加」の例(一部抜粋)

イ 手立て等の追加

活用する教員によって捉え方に違いが生じないように、手立て等の表現が適切であるかを見直した。特に、捉え方に難しさがある内容については、指し示す内容が明確になるよう、説明を追加した(図2)。

主とする教科」とは
生活単元学習として合わせた教科のうち、その単元において主に指導し、評価する教科を「主とする教科」とします。

図2 「説明の追加」の例(一部抜粋)

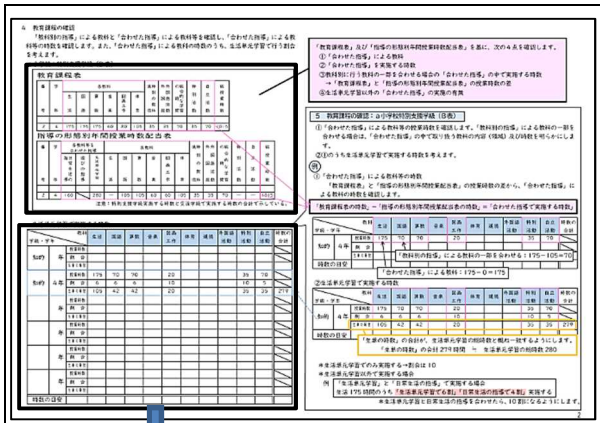
また、学習評価の過程については、学習評価に対する考え方が明確になるよう、手立て等を新たに示した。授業及び単元目標の評価については、適切な評価を行うためのポイントや、目標と評価規準の関係の捉え方、学習評価を授業改善に生かすための考え方を示した。教科の目標の評価については、単元における評価の考え方や、生活単元学習を通して教科の目標を達成する過程に対する考え方を示した。

ウ 手順の入替え

生活単元学習において実施する各教科等の時数を明らかにした上で、年間指導計画を作成するよう、「年間指導計画」と「教育課程の確認」の手順を入れ替え、「4 教育課程の確認」「5 年間指導計画」とした。

エ 「教育課程の確認」の説明の見直し

教育課程を確認する過程であることが分かりやすくなるよう、県下の小・中学校特別支援学級及び特別支援学校が、それぞれ実際に使用している教育課程表の様式を用いて示した。また、イメージを持ちやすく、かつ、取り組みやすくなるよう、具体的な数値を用いて例示するとともに、活用する表の様式を見直し、一つにまとめた(図3)。



学年	各教科等		生活	国語	算数	音楽	図画工作	体育	道徳	外国語	特別活動	自習活動	総合的な学習の時間	校外活動	授業時間数	
	指	選														
2 年	175	175	175	60	80	50	35	35	70	35	70	10	10	10	10	1015

学年	各教科等を合わせた指導		生活	国語	算数	音楽	図画工作	体育	道徳	外国語	特別活動	自習活動	総合的な学習の時間	校外活動	授業時間数
	指	選													
2 年	160	280	—	105	105	60	60	105	35	35	70	—	—	—	1015

学年・学年	教科	生活	国語	算数	音楽	図画工作	体育	道徳	外国語	特別活動	自習活動	合計
知的 4年	授業時数	175	70	70	20					35	70	279
	割合	6	6	6	10					10	5	
5年	授業時数	105	42	42	20					35	35	279
	割合											
6年	授業時数											
	割合											
7年	授業時数											
	割合											
8年	授業時数											
	割合											
9年	授業時数											
	割合											

図3 「教育課程の確認（一部抜粋）」
オ 「年間指導計画」の示し方の見直し

「5 年間指導計画」については、作成手順や示し方の見直しを行った。作成手順については、ステップ間のつながりを往還して考えやすいよう、内容にまとまりを持たせ、ステップを入れ替えたり重複する手順を省いたりした。改善後のステップは、次のとおりである。

- ① 教材の検討
 - ①-1 案
 - ①-2 絞り込み
- ② 教材間のつながりの検討
- ③ 取り扱う教材の精選と単元化
- ④ 主とする教科や主な学習活動の検討
- ⑤ 各単元の時数及び主とする教科に係る時数の概算
- ⑥ 各教科等の総時数の確認

また、作成の過程やステップ間のつながりがイメージしやすくなるよう、レイアウトや例の示し方を見直した。特に、「① 教材の検討」から「③ 取り扱う教材の精選と単元化」までのステップにおいて、レイアウトを変更し、二つのステップを横並びに示すことで、見比べられるようにした。さらに、それぞれのステップの考え方が分かりやすくなるよう、色付けをする、矢印等を用いて関係性を示す、具体例を追加するなどの工夫を行い、検討過程を視覚的に示した(図4)。

また、子どもの生活年齢に応じた具体的なイメージを持てるよう、小学校段階だけでなく、中学校段階の例を追加した。

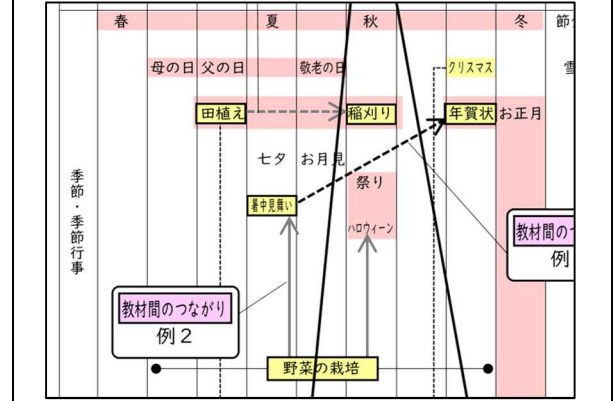
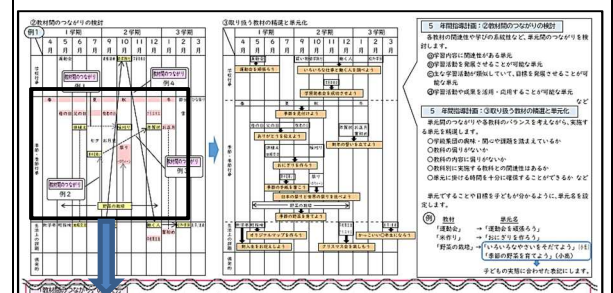
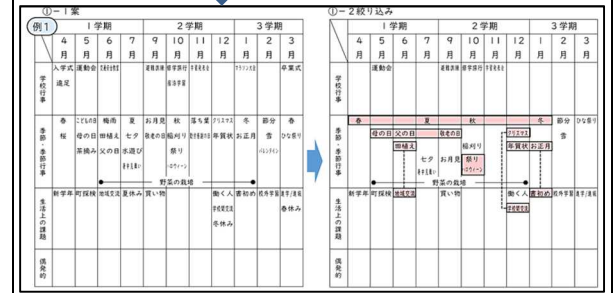
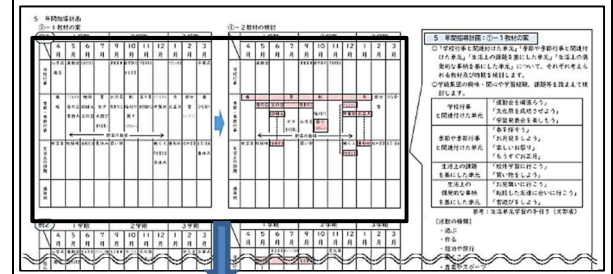


図4 「年間指導計画（一部抜粋）」

カ 令和2・3年度研究成果物の活用方法の見直し

「6 単元設定」以降の過程では、「ガイドブック（案）」に示す授業づくりの一連の過程の中で、単元設定から授業計画までの考え方が理解しやすくなるよう、令和2・3年度研究成果物を抜粋して掲載した。また、令和3年度の実践事例を具体例として活用した（図5）。

Figure 5 shows two examples of research results utilization. The top part is a table titled '実践の方向性' (Direction of Practice) with columns for '学習活動' (Learning Activity) and '児童の学び' (Children's Learning). The bottom part is a lesson plan for '単元「ジュースをかってパーティーをしよう」（特別支援学校 小学部3年）」 (Unit 'Let's buy juice and have a party' (Special Support School, Elementary School 3rd Grade)). The lesson plan includes a table for '学習活動' (Learning Activity) and '児童の学び' (Children's Learning), and a detailed description of the activities and learning goals.

図5 研究成果物の活用例（一部抜粋）

キ 全体像の提示

「ガイドブック（案）」を改善したことで、分量が増えたため、授業づくりの過程の全体像を把握しやすくなるよう、ガイドシートを作成した（図6）。また、知りたい情報が見付けや

すくなるよう、掲載しているページ番号を示した。

3 研究のまとめ

本年度は、「ガイドブック（案）」を作成し、研究員に意見聴取を行った。その結果、「ガイドブック（案）」は、生活単元学習の授業づくりの過程を適切に示す資料であることが確認できた。一方で、レイアウトや文章表記の見直し、具体例の示し方などが課題として挙げられた。これらの意見聴取の結果及び研究協力者の助言を基に、「ガイドブック（案）」の改善を行った。

次年度は、改善した「ガイドブック（案）」を用いた生活単元学習の実践を行い、資料の有効性を検証する。そして、検証を踏まえて「ガイドブック（案）」を改善するとともに、実践をまとめ、特別支援学級や特別支援学校での授業づくりを支援する資料として、提供したい。

主な参考文献

- 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』2018
- 文部科学省「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号）」2016
- 名古屋恒彦『「各教科等を合わせた指導」と教科の考え方 知的障害教育現場での疑問や懸念にこたえる』教育出版2022



図6 ガイドシート